

JDS Network News

発行元：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）

vol. 24
Oct. 2020



表紙写真：ラメラウ山からのご来光（東ティモール）

JDS ウズベキスタン帰国留学生が財務省副大臣に就任

- ❖ オンラインシステムを活用した来日プログラム
- ❖ コロナ禍を生きる（JDS キルギス留学生 Gulumkan Bekturova さん）
- ❖ 旅するカフェ：スターバックスで楽しむ、東ティモールのコーヒー

JDS

The Project for
Human Resource Development
Scholarship by Japanese Grant Aid



JDS ウズベキスタン帰国留学生が 財務省副大臣に就任しました！



Mr. TAPAROV Kurbanmurat Kholmuratovich

立命館大学大学院 経済学研究科 2012 年修了

写真は web サイトより引用

<https://kun.uz/en/news/2020/09/16/new-deputy-minister-of-finance-appointed>

2020 年 9 月 16 日、JDS ウズベキスタン 11 期生の TAPAROV Kurbanmurat Kholmuratovich 氏が、財務省副大臣に就任しました。前号にて紹介した同国経済発展・貧困削減省副大臣、Bobur Abdinazarov 氏の昇進に続き、大変嬉しいニュースとなりました。

JDS 留学当時、財務省地方予算管理部副部長を務めていた同氏は、帰国後、予算管理部部長、財務省地域財務本部部長等を経て、今回財務省副大臣への昇進に至りました。2016 年には立命館大学からの依頼を受け、同学で行われた「JDS セミナー」にて自身の経験を同学の後輩たちに共有するなど、JDS 留学から帰国後も日本との繋がりを持ち続けています。

また、同氏の在学中に指導教員を務められた立命館大学の稲葉和夫教授からは「責任感があり、常に自分の意見を持ち、非常に礼儀正しい留学生。コロナ禍の中での経済運営は本当に大変だと思うが、彼のようなタフな人材こそが活躍できると信じている。」とのコメントをいただいております。今後も新しいポジションでの活躍が期待されています。

1999 年に事業を開始した JDS ウズベキスタンは、昨年 20 周年を迎え、すでに 300 名以上の帰国留学生を輩出しています。昨年 6 月には 20 周年記念の同窓会が開催され、世代やバッチを超えた JDS 帰国留学生同士のネットワークも構築され始めています。今後も JDS 留学生が日本で得た経験やネットワークを活かして、活躍の幅を広げていくことが期待されます。



卒業後、立命館大学にて、
講演をする TAPAROV 氏

～本人からのメッセージ～

今回の就任は、私自身の経済知識や予算分野での実務経験に信頼をおいていただいたからこそこの決定だと思っています。これからは、予算制度を改善し、予算改革を前進させるため、全力を尽くしたいと思います。

立命館大学では経済知識を身に付け、分析力を培い、当時の修士論文の成果も仕事に活かすことができています。今後もこの JDS 留学での経験は仕事において重要な役割を果たすでしょう。

See you soon in Japan!

来日プログラムもオンラインで



オンライン上で集合し、来日前オリエンテーションを実施
(写真はパキスタン国の様子)

JDS では、例年8月に新しい留学生が一斉に来日しますが、今年は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、来日時期が遅れており、国ごとに異なるタイミングで到着する見通しとなっています。そのような状況の中、各国で行われる来日前オリエンテーションも、対面式ではなくオンラインシステムを利用して実施されています。また、来日後に実施していた東京での集合研修も「密」の状態を避けるため、初の試みとしてオンライン学習システムによる自己学習方式を取り入れました。

今やすっかり定着した“リモート方式”ですが、JDSにおいても留学生と日本をつなぐ重要なツールとなっています。

コロナ禍を生きる

Gulumkan Bekturova さん

(キルギス環境保護林野庁・
広島大学大学院国際協力研究科・2019年来日)

「今年の1月頃から始まったコロナ禍において、日本の政府は早い段階からソーシャルディスタンスや手洗いの励行、マスク着用を繰り返し呼び掛けていました。ほどなくして学校も閉鎖され、オンラインによる学習が導入されました。キルギスよりも物価の高い日本で暮らす私にとって、給付金を受けられたことも大変有難かったです。」2019年の夏に来日したばかりの Gulumkan さんですが、予想以上に速くスムーズな行政・大学の対応にかなり救われたと話します。「指導教員の金子先生は、毎週のように私たち学生の体調や状況を心配して連絡をくださいます。オンライン授業では、その特性を生かして、東京大学やオックスフォード大学の教員から遠隔で授業を受ける機会も作っていただきました。」

留学前は公務員として働きながら、夜間は大学院で授業を受け、その合間に家事や子供たちの宿題チェックもこなしていた Gulumkan さん。今は広島で家族と共に暮らし、3人の子供たちは地元の学校に通っています。「日本の学校では、生徒が自分たちで教室を掃除することに驚きました。そうすることで、自分たちが使う場所をきれいに保とうと意識するようになるのですね。また、“年齢に応じた栄養”という観点で作られた給食や、男女別で行われる体育の授業にも驚きました。」日本の教育の良い点を母国の教育関係者たちに伝えたところ、中には早速そのメソッドを実践している教員もいるのだとか。「これからも、日本で学んだことや、この国のことをキルギスの人々に伝えていきたいと思います。」コロナ禍という特殊な出来事を異国の地で経験したことも、きっと役に立つ日が来るでしょう。



イベントに参加し、ちらし寿司を作った時の様子
(中央が Gulumkan さん。写真はご本人提供)

SINCE 1999



Where
Leaders
are made.



JDS The Project for
Human Resource Development
Scholarship by Japanese Grant Aid

番外編！



カフェ
旅する料理

Recipes around the world.

スターバックスで楽しむ、 東ティモールのコーヒー



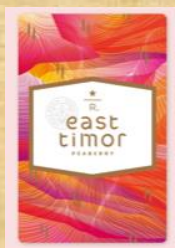
2019年にJDSの1期生となる留学生在が来日した国、東ティモール。同国のコーヒー豆生産量は世界全体の1%に満たないほどですが、近年ではそのオーガニック栽培が注目を集め、私たちの身近なところでは、あのスターバックスでもその美味しさを楽しむことができるのです。

ブラジルをはじめとするコーヒーの名産地、いわゆる“コーヒーベルト”に属する同国では、ポルトガル植民地時代の1815年に宗主国主導でコーヒー豆の栽培が始まりました。長い歴史がありながら、政府がコーヒー豆の栽培に力を入れなかったため、小規模かつ化学肥料や農薬を使わない栽培が続きました。近年の有機栽培コーヒー人気の中で、東ティモールは「100%オーガニックコーヒー」の産地として注目を集め、コーヒー豆の栽培は同国の復興において重要な位置づけとなっています。

スターバックス社が取り扱うのは、カフェティモール共同組合（小規模生産者でも世界の市場にコーヒーを届けられるようにすることを目的に、2000年に設立）が生産した「イーストティモールピーベリー」です。甘みを伴うダークチョコレートやスパイスのような風味と、かすかに感じるレッドフルーツの味わいやまろやかな口あたりが特徴で、フードペアリングではチョコレートとの相性が抜群です。世界でたった1%の貴重なコーヒーを、味わってみませんか？



今号の表紙でご紹介したラメラウ山の周辺は、コーヒー豆生産の中心地です。(写真は Wikipedia より)



コーヒー豆はオンラインショップで購入可能。スターバックスリザーブロースタリー東京などの一部店舗では、ドリンクメニューとして販売されています。(スターバックスコーヒージャパン公式ウェブサイトより)

数字で見ると

東ティモールのコーヒー栽培

年間生産量：8,876トン

世界シェア：0.08%

生産国量ランキング：第39位

(Food and Agriculture Organization 2018年統計データより引用)

今月の表紙

～ラメラウ山からのご来光(アイナロ県/東ティモール)～



東ティモールは島国のため、海のイメージが強いですが、島内は山も森もあり緑豊かな国です。ラメラウ山は標高2963m、東ティモールで最も高い山で、地元の人にとっても人気の観光スポット。まだ山道も整っておらず、少々危ない箇所もありますが、手つかずの大自然が残っています。登り始める夜には満点の星空が、登頂後には日の出に照らされた美しい雲海が私たちを出迎えます。観光を推進している東ティモールですが、自然と共存する在り方で開発が進むことを願っています。

JDS 3つの特徴

1 行政官限定事業

※一部例外がございます

2 4,662名^{*1}16カ国^{*2}の実績

※1 事業終了国の人数も含む ※2 現在の事業実施国数

3 大臣・局長級を輩出

対象国の社会・経済開発計画の立案・実施に関わる若手行政官が日本で修士号または博士号を取得します。

出身省庁…財務・経済、法務、行政、環境、インフラ、教育等

<事業実施対象国> ※受入人数順

ベトナム、ミャンマー、カンボジア、ラオス、バングラデシュ、フィリピン、ウズベキスタン、モンゴル、キルギス、パキスタン、スリランカ、ネパール、ガーナ、ブータン、東ティモール、タジキスタン

※中国は2012年、インドネシアは2006年に事業終了しました。

日本で専門知識を身に着け帰国した留学生は、日本との政策対話に携わる等、様々な場面で活躍しています。

人材育成奨学計画（JDS）は無償資金協力による
JICA留学生受入支援事業です。

Editor's Note

JDS Network News (JNN) をお読みいただき、ありがとうございます。

来日が遅れていた今年度来日のJDS留学生ですが、人の往来再開に向けた段階的措置により、順次来日の目途が立ってまいりました。いまだ新型コロナウイルス感染が拡大する中で、不安を感じつつも来日する留学生がほとんどではないかと思えます。留学生一人ひとりの不安を少しでも軽くして、無事に日本留学を終えられるよう、JICEスタッフ一同、サポートを続けて参ります。

JDS事業に関するご質問がございましたら、お気軽にメールで弊センターまでお問合せください。また、本誌へのご意見・ご感想もお待ちしております。

【お問い合わせ先】

一般財団法人日本国際協力センター（JICE）
留学生事業第一部留学生事業課広報担当
E-MAIL: jds.PR@jice.org